尼崎公害訴訟

グループ3
鈴木　田仁　福島　藤江

動機

- 身近な地域の問題であること
- 和解が成立し、問題解決に向けた対策が実施されているため
- 最近のニュースで報道されていたため

兵庫県尼崎市

- 阪神工業地帯の中核を担う工業都市として『工都』と号し、立ち並ぶ煙突が町の誇りとされる一方、公害の都市として有名であった。
- 近年では、かつて工業用排水・生活排水による汚染が著しかった市の中心部を流れる庄下川が魚の住める状態にまで改善された
- また、NPO主催によるコンテストにおいても、「日本のきれいな都市」トップ5に選出されたことがあるなど、美化事業に力を入れている。
- ダウンタウンは尼崎市出身。

問題概要

- 兵庫県尼崎市における大気汚染問題。
  1988年12月国道43号沿線の住むぜんそく患者らが企業や国、阪神高速道路公団などを相手に起こした訴訟。

- 公害病認定患者
  累計1万1208人　　死者1695人（1988年11月末）

原因

- 工業地帯からの煤煙と、国道2号、国道43号、阪神高速大阪西宮線などの自動車の排気ガス（浮遊粒子状物質）による大気汚染が原因。

浮遊粒子状物質

- 粒子状物質とは、固体及び液体の粒のことをいい、工場などから排出されるもの（煤塵）や、物の粉砕などによって発生するもの（粉塵）、ディーゼル車の排出ガスに含まれるもの（黒煙）などがあります。

  粒子状物質のうち、粒径10ミクロン以下の小さいものを特に浮遊粒子状物質と呼びます。小さなため大気中に長期間とどまり、肺や気管などに沈着しやすく、呼吸器への影響があるといわれています。

  この浮遊粒子状物質については、「1時間値の1日平均値が、0.10mg/m3以下であり、かつ1時間値が0.20mg/m3以下であること」という環境基準※が設定されています。

  ※ 環境基準
  人の健康を保護する上で維持されることが望ましいとされる基準

裁判の結果①

- １９９９年２月１７日

  解決金支払いと今後の公害防止対策などを条件に、被告企業との間で和解が成立。

裁判の結果②

- ２０００年１月３１日

  神戸地裁の判決一定条件の下において道路公害と健康被害の因果関係と被告（国・公団）の責任を認め、被害差し止めをみとめたのをうけて、国・公団の間においても控訴審における大阪高裁の勧告により同年１２月８日に和解成立。

和解条項①

- 国・公団側の取り組み

  国および公団は、本件地域の交通負荷を軽減し、大気汚染の軽減を図るため、国の関係行政機構及び地方公共団体とも連携して以下の実施の検討ないし実施に努める。

  五省庁

  環境庁、建設省及び公団は、今年六月に関係五省庁がまとめた「当面の対策」に従って、関係行政機構とも連携し、沿道環境対策に取り組む。

和解条項②

- 環境庁の対策

1、ディーゼル自動車の新長期目標について2005年までに達成するよう取り組む。

2、2004年末までに軽油の低硫黄化(50ppm)を達成するよう取り組む。

3、ディーゼル微粒子除去装置(DPF)耐久性試験を進め、補助制度などの支援策を検討する。

4、自動車メーカーや自動車をしようする事業者による一層の低公害車･低排ガス車の販売･使用を促進する仕組みを検討する。

和解条項③

- 大型車対策

1、阪神高速神戸線と湾岸線において、料金に格差を設ける環境ロードプライシングを早期に試行的に実施する。

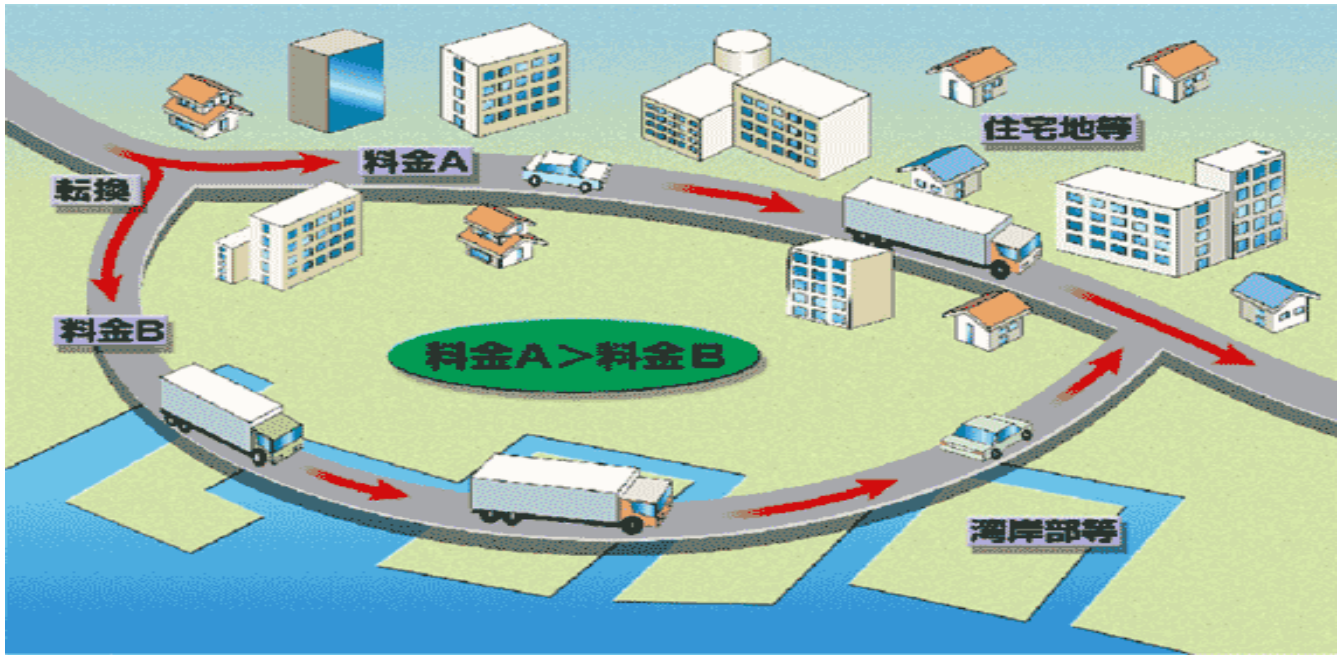
2、自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法(自動車NOx法)を周知徹底し、トラック事業者にう回輸送への協力を要請する。

3、特殊車両通行許可違反に対し、道路法第四十七条の二を厳格に適用する。

4、大型車の交通規制の可否の検討のために必要な交通量の調査に来年度までに着手する。また、大型車の交通規制の可否の検討について、早期に結果を出すよう、警察庁に要請する。

環境ロードプライシング

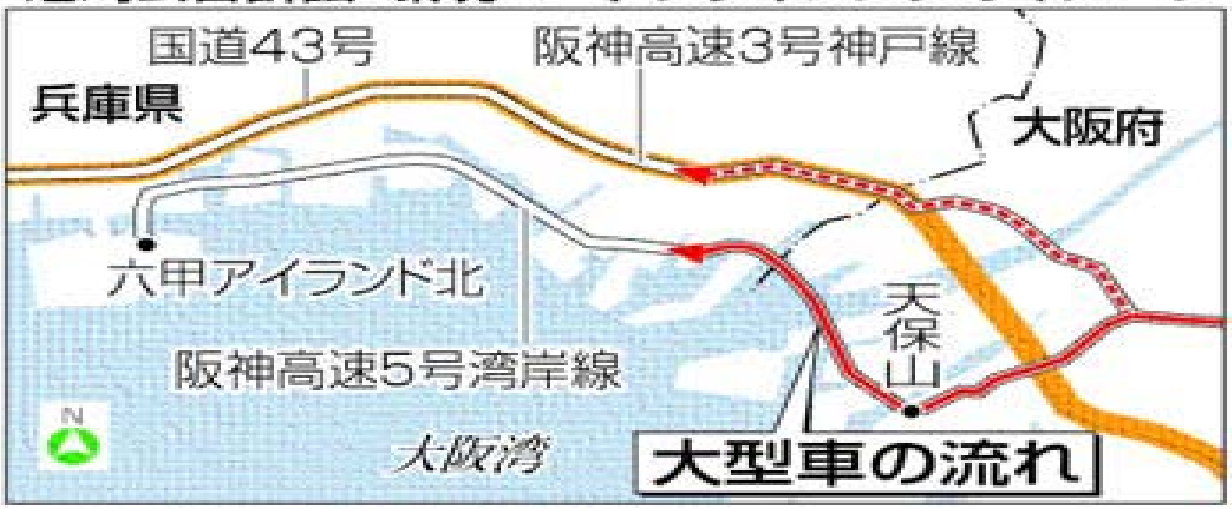
- 住宅地域の沿道環境を改善するため、有料道路の料金格差を利用して住宅地域に集中した交通を湾岸部等に転換する施策。（国交省HP抜粋）



尼崎の環境ロードプライシング

- ４月から五号湾岸線の大型車の通行料金を3割引にする。43号線とその上を走る3号神戸線の大型車を湾岸線に誘導して、大気への環境負荷を低減するのが目的。

尼崎公害訴訟・環境ロードプライシングのイメージ



尼崎の環境ロードプライシング

- 通常、大阪～神戸間を移動する際の通行料金は神戸、湾岸両線とも2400円。ロープラが導入されると、湾岸線は1680円になり神戸線より720円安くなる。平日夜間（午後10時～午前6時）、土日祝日（終日）に利用するとさらに2割引され、半額近くになる。

まとめ

- 和解条項の大きな柱の一つである、環境ロードプライシングが開始され問題解決のために動き出した、その効果が期待されるところである。